

開成中学入試問題分析 令和2(2020)年度

〈問題レベル〉

- 1 本文中の記述内容を組み合わせるだけの基本問題
- 2 本文中の表現を生かしつつ、積極的な再編集が求められる標準問題
- 3 本文の内容を元に、適切な表現を自らで用いて表現する必要のある発展問題
- 4 本文の内容を深く汲み取り、適切な表現を自らで用いて再構成する必要のある難関問題
- 5 本文の精緻な読解と豊富な語彙力に加えて、前提となる高度な教養が求められる最難関問題

一 問一 20行目線「同じ班になった『ひなっち』という子と仲良くなった」とありますが、めぐ美は、ひなっちと出会ったことで、どのように変わりましたか。説明しなさい。「レベル2」

※ 変化を説明する問題のポイント

1

- ① 変化前よりも変化後に力点を置く
- ② 変化前と変化後の対応関係を明確にする

○ 20行目線「小学三年生の新しいクラスで、同じ班になった『ひなっち』という子と仲良くなった。」

↓元々はどのような子だったのか？

↓13行目「ふたりの会話を聞いていて、めぐ美はうっすらと、本が愉しかった頃のことを思い出した。」

↓18行目「本を読んでいると、ミイ姉に『ネクラ』とか『キモイ』と言われたり、読んでいた本を取り上げられて隠されたりしたせいだとも言えるが、それだけでなく、めぐ美自身が性格を変えたかった。」

↓本が好きだった

↓24行目「低学年の頃の自分は、大人数でわあっと盛り上がるノリには気後れした。」

↓内気な性格だった

↓ひなっちと出会ったことで、どのように変わったか？

↓23行目「ひとりで本を読むのは寂しいこと、実際寂しくなくても、寂しそうに見られることだという考えを、めぐ美は自分に植えつけた。」

↓「ひとりで本を読むのは寂しいこと」という考えに変わった

↓25行目「だけど、ひなっちに引っ張られて遊んでいるうちに、友達は自然と増えていったし、盛り上がることも楽しめるようになってきた。めぐ美は鬼ごっこやドロケイで活躍したし、友達から、友達の多い子だと思われるようになったら、学校が楽しくなった。その自信は、本からでは、得られないものだった。」

↓「ひなっちに引っ張られて遊んでいるうちに、友達は自然と増えていったし、盛り上がることも楽しめるようになって」「学校が楽しくな」り「自信」が「得られ」た

2

【解答例】 本が好きで内気な性格だったが、読書をやめ、ひなっちのおかげで友達も増え、盛り上がるようになって学校が楽しくなり自信が得られた。(64字)

【部分点】 本が好きで…2点 内気な性格だったが…2点 読書をやめ…2点 ひなっちのおかげで友達も増え、盛り上がるようになって…2点 学校が楽しくなり自信が得られた…2点

【残念解答例】 大人数でわあっと盛り上がるノリには気後れしていたが、「人気者」というポジションの端っこにいられるようになり、自信が得られた。

【採点】 10点中3点

【寸評】 「めぐ美」の性格の根幹を担っていた、読書について触れられてないことが減点対象。

また自信が得られた理由を『「人気者」というポジションの端っこにいられるようになり』と片付けてしまっている点も説明不足。25行目「ひなっちに引っ張られて遊んでいるうちに、友達は自然と増えていったし、盛り上がることも楽しめるようになって」という部分についての言及は必要。